

平成22年度日本小児外科学会
第3回定例理事会議事録

日 時：平成22年9月17日（金） 11:00～17:00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：岩中 督（理事長）、田口智章（副理事長）、土岐 彰（理事・会長）、上野 滋（理事・副会長）、橋本 俊、濱田吉則、葦澤融司、前田貢作（以上理事）、伊川廣道、林 富（以上監事）、吉澤穰治（財務会計委員長）、越永従道（財務会計副委員長）

金森 豊（庶務副委員長）、鈴木淳一（庶務委員）、村上 聡、佐々木真紀（事務局）

欠席者：金子道夫（監事）、小室広昭（庶務委員長）

議 事：

1. 第3回定例理事会の議事録署名人は土岐 彰理事、濱田吉則理事とした。
2. 平成22年度第2回定例理事会議事録が承認された。
3. 報告事項

1) 外科関連学会協議会報告

田口副理事長より、8月5日に開催された協議会について、現在協議されている議題が報告された。

①新しいチーム医療体制の確立に関する件

特定看護師を作るかどうかについて、厚生労働省とともに協議中で、病院等にアンケート調査をしているところである。

②日本医師会への提言について

勤務医の状況を把握しているか、代議員比率の適正化を検討しているか、定款の変更及び臨床系学会を職能集団とするかななどの提言に対し回答があり、継続審議となっている。

2) 秋季シンポジウム小委員会報告

田口委員長より、6月17日に開催された小委員会について報告され、以下のようなテーマが提案されたことが報告された。

①小児救急治療—外傷と虐待—

②医療経済と倫理

③難治性良性腫瘍

3) 理事長報告（岩中理事長）

- (1) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針に日本関節学会が賛同した件」を受領した。
- (2) 製薬協からの寄贈本「製薬協ガイド2010」を受領した。
- (3) 厚生労働省からの通信文「医薬品・医療機器等安全性情報報告精度に周知についてに関する正誤表」を受領した。
- (4) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針に日本臨床皮膚外科学会が賛同した件」を受領した。
- (5) 厚生労働省からの通信文「医薬品・医療機器等安全性情報 No. 271」を受領した。

- (6) 日本医師会からの寄贈本「JMAJ Vol.53No.3」を受領した。
- (7) 日本学術会議からの「日本の展望学術からの提言2010ポスターおよびリーフレット」を受領した。
- (8) 日本心臓血管外科学会からの寄贈本「日本心臓血管外科学会 40周年記念誌」を受領した。
- (9) 厚生労働省東北局からの寄贈本「東北圏における救急医療体制の課題分析等に関する調査報告」を受領した。
- (10) 日本麻酔科学会からの寄贈本「Journal of Anesthesia Vol,24No.1~3」を受領した。
- (11) 日本医学会からの「第11回日本医学会公開フォーラム脳卒中パンフレット」を受領した。
- (13) 日本医学会からの寄贈本「日本医学会分科会一覧」を受領した。
- (14) 日本医師会からの寄贈本「JMAJ Vol.53No.4」を受領した。
- (15) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「News Letter 3」を受領した。
- (16) 日本医科器械資料保存協会から「平成22年度医科器械史研究賞受賞候補者の推薦依頼について」を受領し、ホームページに掲載することとなった。
- (17) 乳幼児精神保健学会からの「FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会特別セミナーのお知らせ」を受領した。
- (18) 日本外科学会からの寄贈本「Surgery Today Vol. 40 No. 9」を受領した。
- (19) 医機連からの「貴学会のアジア諸国学会との国際交流に関するアンケート調査のご協力をお願い」を受領し、回答については保険診療委員会にて行うこととなった。
- (20) 日本がん治療認定医機構からの「関連学会連絡委員会開催報告書」について、8月19日に開催され、悪性腫瘍委員会の米田光宏委員長が出席した際の報告であることが説明された。

4) その他

(1) 総合調整委員会の日程確認と議題確認

田口副理事長より以下の通り確認された。

2010年 9月22日 (水) 14:00~17:00

2010年12月10日 (金) 13:00~16:00

2011年 2月 8日 (火) 14:00~17:00

2011年 4月 1日 (金) 14:00~17:00

4、審議事項

1) 第48回学術集会について

土岐会長より、以下の報告があり了承された。

・プログラム(案)として以下の通り準備している。

1. シンポジウム

- 1) ここがおかしい小児保険診療
- 2) 小児外科医のライフワークバランス
- 3) 低出生体重児に対する外科治療の長期予後
- 4) 小児外科と漢方

2. ワークショップ

- 1) 各地域における小児外科のかかわり
- 2) Hirschsprung病術後の術式別排便機能

3. パネルディスカッション

- 1) 最先端の画像診断法
- 2) 水腎症の治療と長期予後

- ・PALS講習会については、東京での開催ということもあり、会期後に専用会場で開催できる可能性があり、検討中である。
- ・濱田理事より、ビデオセッションを一般セッションと別枠として欲しいとの要望があった。

2) 第49回学術集会について

上野副会長より、以下の報告があり了承された。

- ・会期：2012年5月14日（月）～5月16日（水）（5月13日（日）：理事会・評議員会）
- ・会場：パシフィコ横浜「Annex ホール」（神奈川県）
- ・プログラムなどについては企画中である。

3) 第26回秋季シンポジウムについて

岩中理事長より、以下の通り報告された。

- ・会期：2010年11月20日（土）
- ・会場：ワークピア横浜（神奈川県）
- ・テーマ：「障がい児を支える—小児外科医の役割—」

また、前々日に開催される理事会について、11月18日（木）に開催する時間帯を繰り上げて、8:00～16:00とすることが提案され、承認された。

4) 庶務委員会報告

金森庶務副委員長より報告があり、以下のようによ了承された。

会員動向について、平成22年8月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,844名（うち海外6名）、評議員303名、名誉会員53名（うち海外9名）、特別会員59名（うち海外1名）の計2,259名であると報告された。

また、最近10年間の会員動向についてグラフが提示され、検討され、専門医の割合についても比較する必要が指摘された。

5) 財務会計委員会報告

吉澤委員長より報告があり、以下のようによ報告され審議の結果、承認された。

- ・アトムメディカルから広告の中止の連絡があった。裏表紙が空いてしまうので、その活用方法について検討された。単回の申込みについて勧誘すべきとの提案がされた。
- ・学会期間中の委員会開催経費について、従来、委員会費用を会長に負担いただくことが多かったが、開催される委員会が増えていることなどから、個別に支払う、あるいは包括的に50万円を支払うことが提案され、包括的支払いとする方向で認められた。但し、次回理事会にて、最近3年間の期間中委員会の会場費請求額について報告し検討することとなった。

- ・セミナー開催について、現在、卒業教育セミナーの他に、内視鏡、小児救急、倫理安全、PALSがあるが、その扱い、経費について検討され、卒後教育セミナーのように内規を定めることとなった。
- ・財政改善計画について審議され、会費を増額するなどして収入増を目指すのか、経費削減を目指すのかなどが検討された。今後、会員統合システムが完成すれば、合計で約300万円の経費削減が見込めることなどが報告された。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会報告

上野担当理事より、以下の通り報告された。

- ・第47巻第4号および5号が順調に発刊されている。

(2) 国際・広報委員会

岩中理事長より以下の通り報告された。

- ・10月にあるWCPSの会議中に開催されるCouncil of Delegatesにおいて、北川委員長をアジアからの理事に推薦する予定である。
- ・ISWについて、WOFAPSと検討しながら協力している。
- ・委員会の英文名称について一部変更する。
- ・PAPSは4月10-14日にメキシコで開催予定である。
- ・ホームページ管理について、掲載内容を持ちまわり理事会で確認いただいているが、審議不要なものも多くあるので、該当箇所の内規の変更について次回理事会にて提案する。
- ・ホームページのドメイン管理について、従来は池袋賢一先生が担当されていたが、今後は学会事務局で担当する。

(3) 保険診療委員会

土岐担当理事より以下の通り報告された。

- ・以下の術式について、主学会を日本泌尿器科学会から本学会に変更し、またD群手術とすることとなった。
 - ①膀胱外反症手術
 - ②膀胱外反症手術、その他のもの
 - ③総排泄腔外反症に対する排泄路形成術
- ・外保連に麻酔委員会が新設され、本学会からも委員を派遣することとなった。
- ・検査委員会委員の変更について、田辺委員が辞任の意向であるので、広報委員を後任として検査委員会、医療機器ワーキンググループに参加いただくことが提案され、承認された。

(4) 教育委員会

橋本担当理事より以下の通り報告された。

- ・第27回卒後教育セミナーについてプログラム案が提示された。

トピックスの内容について、保険適用されていないような高度な術式をクローズアップすべきではない、内視鏡手術に偏りすぎではないかなどの意見があった。

- ・内視鏡手術セミナーについて、講師未定であるが、開催準備中である。
- ・マッチングシステムについてホームページで自由に閲覧できるようにしたため、学会誌への掲載を中止した。
- ・日本医学会用語委員会からの近況報告とお願いに関して報告され、意見などがあれば橋本理事まで連絡することとなった。

(5) 悪性腫瘍委員会報告

前田担当理事より、以下の通り報告された。

- ・平成 22 年度第 2 回委員会を開催した。
- ・今年度の登録用事業は 9 月末日を締切として作業中である。
- ・登録用紙を改訂した。
- ・登録の電子化について、日本がん検診診断学会において米田委員長が報告した。
- ・日本小児がん学会よりデータ交換の依頼があったが、データの内容などに違いがあるため、あくまでデータ解析結果としての施設ごとの症例数を供与することが提案された。日本小児がん学会よりは施設別の腫瘍別登録数を提供いただくこととなっている。但し、全体のデータの取り扱いに関する決まりを制定する必要があることが指摘された。

(6) 学術・先進医療検討委員会報告

濱田担当理事より以下の通り報告された。

- ・総会演題集の作成について、第 46 回（平成 21 年）学術集会の演題集をホームページに掲載した。
- ・ビデオライブラリーの作成について複数社からの見積もりを検討中である。また、第 47 回学術集会のビデオセッション 29 題について採点し、掲載候補 10 題を選定した。
- ・文部科学省・日本学術振興会科学研究費申請及び採択状況の平成 21 年度科研費アンケート結果をホームページに掲載した。
- ・新生児外科全国アンケート調査について、NCD の登録事業と関連するため今後どのように登録・調査を行うか検討中である。
- ・会員対象のアンケート調査について新規 2 件を承認した。
- ・研究プロジェクトの現状の情報提供について以下の通り報告された。
 - ⑨「内視鏡外科手術」をホームページに掲載した。
 - ⑩「漢方治療の EBM」をホームページに掲載した。
 - ⑪「移植医療」の掲載内容を修正した。
 - ⑫「周産期医療の中の小児外科」は内容を変更し、「出生前診断の役割と問題点」に変更し審議中である。
 - ⑬「randomized controlled study (RCT)」は順次ホームページに掲載予定である。
- ・日本医師会からの依頼原稿を JMA ジャーナルに掲載した。

(7) 倫理安全委員会報告

菲澤担当理事より、以下の通り報告された。

- ・懲戒規定に関する規定について、梶谷弁護士が確認した定款、施行規則、専門医制度施行細則が提示され、承認された。今後、都の担当者に確認後、次回評議員会にて承認される必要がある。
- ・勤務医の労働状況および女性医師の労働環境の実態を把握するための勤務状況アンケート調査について、改訂された調査票が提示された。
- ・利益相反委員会について、利益相反に関する指針のたたき台が提示された。また、利益相反小委員会について、常設委員会にするかどうか検討され、倫理安全管理委員会内の小委員会として常置委員会とすることとなった。
- ・診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業の件について、各地域の地域責任者を選出し立会医、評価医を推薦いただいているところである。

(8) 小児救急検討委員会報告

上野担当理事より、以下の通り報告された。

- ・小児救急連絡協議会が8月23日に開催された。
- ・専門医取得のための小児救急研修に関する意識調査結果について報告された。

(9) データベース委員会報告

前田担当理事より、以下の通り報告された。

- ・NCDの倫理委員会委員として、倫理安全委員会の吉田委員長を推薦した。
- ・NCDの登録開始が2011年1月1日に予定されている。今後テスト入力などの諸手続きが進行するため、ホームページ等で案内する予定である。
- ・NCDテスト入力の施設を選定した。
- ・臨床データの取り扱いに関する規定に関して討議し、専門医制度諸規則の変更の必要性などについて引き続き審議する。

7) 専門医制度規約改定の件

田口副理事長より、専門医制度規約改定について、承認され機関誌10月号に掲載される予定であることが説明された。

8) NCDの件

前田担当理事より、NCD運営委員会専門医制度委員会合同会議の活動について報告された。各学会での進捗状況、テスト入力に向けての説明、NCDの利用者登録について（各診療施設の代表者がUMIN登録し、入力責任者を登録する）、倫理委員会の設置、周知方法の確認などについて議論された。

9) 会員管理統合システムの進捗状況

金森庶務副委員長より、NTT-PCなどとの打合せを行っており、NCDのデータを専門医制度

で使用するための作業について順次進めていることが報告された。

但し、新生児登録、悪性腫瘍登録については、当初段階では使用しない。

10) その他

(1) 各地方会と日本小児外科学会の関係について

岩中理事長より、会員から地方会の在り方について各地方会が協働できないかという提案があったことが報告された。喫緊の問題ではないが、各地方会の代表制や世話人の有無、会費の有無、会則についてなどの情報収集を行いたいとの提案があった。

(2) 日本小児科学会からの依頼について

岩中理事長よりワクチンを公費負担にするための署名活動への協力依頼があった。ホームページに掲載することとなった。

(3) 評議員選挙の公示およびスケジュールについて

金森庶務副委員長より、評議員選挙公示案が提示され、承認された。オンライン投票についての是非も検討したが、定款に紙面で投票する旨規定があるため、今回は行わないこととなったことが報告された。

11) 小児がん専門医について

田口副理事長より、日本小児がん学会から提案のあった、小児外科専門医を前提とした小児がん外科専門医を設けることについて説明された。また、持ち回り理事会における意見の取りまとめ結果が報告された。

小児がん外科専門医の必要性、条件などについて議論され、小児外科専門医の取得カリキュラムの課程・研修のみで取得可能であり試験内容も外科領域に限定するなど考慮すれば設置可能とする案、小児がん外科専門医を設置することで専門医でない医師が手術できにくくなるのであれば小児外科専門医の価値を下げることになるとの反対意見、既に協議し合意していること一般のニーズなどから設置すべきとの意見などがあった。岩中理事長からこれから専門医を取得する医師にとっての不都合はないとの意見もあったが、意見が様々で結論を得なかったため、次回理事会にて再度検討することとなった。

以上

理事長 _____

理事 _____

理事 _____